# 第1105回教育委員会（定例会）会議録

公　開

1　日時場所
令和元年７月30日（火）　午後２時
県庁教育委員会室

2　出席者
稲荷教育長、山本委員、小林委員、齋藤委員、井口委員、三井田委員
（事務局）藤澤教育次長、須貝教育次長、鴻江総務課長、加藤財務課長、藤田福利課長、佐藤義務教育課長、藤井高等学校教育課長、鈴木生徒指導課長、信田生涯学習推進課長、佐藤文化行政課長、灰野保健体育課長、企画主幹、総務・財務・福利・義務・高等学校教育・生徒指導・文化行政・保健体育各課長補佐、総務課総務係長、総務課総務係主任

3　開会
午後２時

4　議事日程の承認
第1105回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

5　会議録（公開分）の承認について
第1104回教育委員会（定例会）会議録（公開分）を承認した。

6　その他
(1)　**全国都道府県教育委員会連合会令和元年度第１回総会等について**
令和元年７月８日から９日まで高知県高知市で開催された、全国都道府県教育委員会連合会令和元年度第１回総会等について、参加した委員等から意見や感想等が報告された。

| | |
|---|---|
| 山本委員 | 資料10ページに記載のとおり、会議は８日午後から９日午前にかけて開催された。<br>１日目の文部科学省の行政説明では、「普通科高校の魅力化について」をテーマに、高等学校の現状や高校生の実態、学習指導要領の改訂、高等学校の魅力化の推進、高校改革の今後の動向等について説明があった。 |

続いて行われた連合会第１回総会では、初めに高知県の教育長から高知県の教育の概要に関する説明が行われた後、連合会の会計や事業報告、新役員の就任等について報告があった。

続いて、「学校教育におけるＩＣＴ活用」をテーマに、東京学芸大学准教授による講演が行われた。講演では、共通のメール文書を職員が同時に編集し、常に最新のものを閲覧することのできるシステムや、職員会議の予約や出席状況の確認を共通の画面で行うことのできるシステムが紹介された。各県の教育長と教育委員の席の間にパソコンが１台ずつ配置され、実践を踏まえながら講師の説明を聞くことができた。

２日目の分科会では、「学校における働き方改革」と「普通科高校の魅力化」をテーマに他県の委員と意見交換を行った。

１つ目のテーマでは、最近の働き方改革は労働時間にやや焦点が当たりすぎている印象があり、出退勤管理に関しても在校時間イコール勤務時間なのかという部分について、中身を精査する必要があるという意見が出されていた。

この中で、最近の新聞に掲載されたＯＥＣＤの「国際教員指導環境調査」の結果についても触れられたが、それによれば日本の教員が自己研修に費やす時間は１週間あたり40分と、加盟国中最低とのことであった。欧米では教員の仕事は授業が中心だが、生徒指導も含めて一体的に行う日本型教育を維持するのであれば、部活動指導員や業務アシスタントを増やすべく予算確保に尽力すべき、という声が上がっていた。

また、他県が実施した調査で、月100時間以上の超勤を行った教員の理由として最も多かったことが、小学校では41.7％が教材研究、中学校では52.5％が部活動、県立高校では76.9％が部活動との結果が出ており、これらの解決なくして働き方改革の実現は困難であると感じた。

２つ目のテーマである「普通科高校の魅力化」については、私立高校への進学も増えている中で、県立高校が衰退している現状があり、募集定員に満たない高校では総合学科やコース制を導入するなど魅力化に努めてはいるものの、募集人数確保のために行っている印象も否めないという意見が出されていた。

一方で、普通科高校の場合は特別な知識は必要ではなく、自分の進路に志を持った学生を育てることが重要であり、それについて考える機会を与えることが大切だという意見も出されていた。

他県の特色ある取組としては、入試改革への対応と課題解決能力を身に付けるために「探求科」や「普通科探求コース」を普通科高校に設置した事例や、官・民・教育界が連携してコンソーシアムを設立し、高校生向けの講座やワークショップを開設した事例等が紹

介された。
　各県での取組や、委員の考えについて活発な議論が交わされ、非常に有意義な分科会であった。

稲荷教育長

　働き方改革については、教育長協議会の分科会でも同じテーマで意見交換が行われた。先ほど話のあったとおり、部活動がかなりのウェイトを占めているというのが各県の共通認識ではあるものの、部活動に期待をしている生徒もいれば、保護者もいるため、なかなか厳しい部分もあるという話が出されており、どの県においても決定打がなかなかない状況であることを改めて実感した。
　また、他県では校務支援システムを県が独自に導入し、市町村からの要望があれば提供するという所があった。本県では市町村の方が先行している状況だが、県立学校における働き方改革を考えた際、もう少し研究の余地があると感じた。

**(2)　令和元年６月県議会における主な質問・答弁等について**

　事務局から、令和元年６月県議会において行われた主な質問・答弁等について報告があった。報告された事項は以下のとおり。

- いじめ防止対策等について
- 教員確保について
- 再編整備・特色ある学校づくりについて
- 大学進学率について

　なお、次のとおり質疑等があった。

三井田委員

　資料14ページにスクールロイヤーに関する記載があるが、配置された４校とは具体的にどこの学校か。また、スクールロイヤーは学校行政に詳しい人物が望ましいと思うが、今回配置した方について、どのような観点で選任したのか。

鈴木生徒指導課長

　４校は糸魚川高校、直江津中等教育学校、十日町高校、小出高校である。選任にあたっては県の弁護士会に相談し、適任者を推薦していただいた。基本的には、その地域の弁護士に各学校を担当していただいている。

稲荷教育長

　６月議会の常任委員会では、年度当初ということもあり、教育委員会としていじめの方針や心構え等も含めてご説明をさせていただいたが、多くの議員の方々から様々なご質問をいただいた。依然としていじめに対する関心が高く、ある意味危惧を持たれていること

の証明であると感じた。我々としても、いじめの問題を緊急性のある課題だと改めて認識しなければならないと感じた。

(5) 平成30年度新潟県立図書館運営に対する評価について

事務局から、平成30年度の新潟県立図書館の運営状況に係る新潟県立図書館協議会による外部評価の結果について報告があった。

なお、次のとおり意見があった。

| | |
|---|---|
| 井口委員 | 大学では、図書館を自習室として使用する学生から、24時間開けて欲しいという要望も上がっており、京都大学等、実際に終日図書館を開館している所もある。公立図書館のあり方には、本を貸出す以外にも様々なサービスがあると思うが、県立図書館でも貸出以外のサービスにも力を入れており、良いことだと感じた。 |

以上で、公開分の日程を終了した。

# 第1105回教育委員会（定例会）会議結果

非公開

7　公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。

8　会議録（非公開分）の承認について
第1104回教育委員会（定例会）会議録（非公開分）を承認した。

9　議案審議
**第11号議案　教職員の人事措置について**
事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

10　その他
**(3)　不利益処分に関する審査請求について**
事務局から、不利益処分に関する審査請求事案について報告があった。

**(4)　県立高等学校の生徒指導状況について**
事務局から、県立高等学校の生徒指導状況について説明があった。

**(6)　教育行政上の諸課題について**
意見交換された事項は次のとおり。
**ア　県立学校の生徒事案に係る進捗状況について**
**イ　いじめ問題対策連絡協議会について**

11　議案審議
**第10号議案　県立義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択について**
事務局から、令和２年度に県立特別支援学校及び県立中等教育学校で使用する教科用図書の採択案について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

12　閉会
午後３時40分